

2019年1月19日

2019年1月定例自然観察会報告

3班 岩崎 敏明

I 概要

- ・日時：2019年1月13日（日） 9時30分～14時30分
- ・天候：快晴
- ・テーマ：振り向いて、神戸の街を眺める！
- ・コース：阪急岡本駅～神戸薬科大学～中野谷西尾根～山の神跡～保久良神社
～天上川公園
- ・参加者：ビジター64名、会員45名（内3班スタッフ19名）
（自主研修会12月23日（日）参加会員数31名）
- ・配布資料：観察会ルートマップ、植生リスト
- ・説明リーダー：①田中（悦）、②杉本、③根来、④中村、⑤中山、⑥中島

当日の天候は快晴で1月にしては気温も上がり絶好の観察会日和となった。予想していた参加者を大幅に上回る64名ものビジターを迎えることができた。阪急岡本駅周辺は人通り多く集合場所が狭いため予定していた時間よりも早い出発となり、車の往来も少ない中野八幡神社から観察会を開始した。

午前中は中野谷と権現谷間の尾根道を登り、午後からは権現谷と八幡谷の尾根を下って保久良登山口・天上川公園までのコースである。全体的に山道は細いため集合して説明できる場所は限られた。観察会としてこの時期は冬芽、果実中心の説明となった。

II 観察記録

①中野八幡神社～山の神跡周辺

中野谷八幡神社から谷沿いにはエノキ、ムクノキなど六甲山中で良くみかける樹木を観察した。民家周辺では年中咲いているヒメツルソバが、薬科大学付近ではセンダンの黄色い果実、イヌビワの果囊などが見られた。沢沿いの階段を上がり風吹岩方面への標識から下ると細い流れの中野谷に出会う。対岸に渡り西側の尾根に取り付いた。付近にはナラ枯れのアベマキが多数見られ、ナラ枯れ対策のビニールを樹皮に巻き付けカシノナガキクイムシの侵入・脱出を防止している。兵庫県では平成9年頃より県北部から被害が始まり、平成29年頃には瀬戸内海まで被害地域が拡大しているとの事であった。気温が高いのか登りでは汗ばんでくるため適時、休憩をとり水分補給をした。快適に尾根を進むと両側にササが多数みられるようになった。この付近ではタラノキ、ヤツデ、キヅタなどのウコギ科植物としばしば出くわす。タラノキの葉痕は維管束痕が多いので真珠のネックレス様に見られるので、その形に参加者は感動していた。次には山菜の話へと繋がっていった。ヤツデの花は雄性先熟でこの時期は雄花が散って雌花から果実になっているとの説明に聞き入っておられた。日陰に強いこともあり裏庭とか便所の目隠しに使われている。古くは「蛆殺し」として便槽に使われていた。道沿いにあるソメイヨシノにキヅタの太いつるが付着根で這い上がっているのがしばしば見られる。つる植物の逞しさが感じられる。

道端には枯れたイヌコウジュが所々にみられ匂いを嗅ぐと特有の匂いがするのでその名前を説明者に聞いていた。

この尾根上ではヤブツバキ、サザンカ、チャノキのツバキ科植物が見られる。



チャノキの果実の説明で初めて見たとの事で参加者はその種子を探されていた。この時期に咲いている花は少ないのでツバキの花は印象的でした。椿の葉を用いた和菓子「つばき餅」の写真を示し、あの「源氏物語」にも登場するお菓子だと説明した。この時期に和菓子店で販売されているので一度ご賞味ください。

道沿いのオオバヤシバブシは落葉し果穂が良く見え、冬芽の特徴を説明したので参加者はヤシバブシ類の識別を理解でき勉強になったと言っておられた。日当たり良い場所では、赤い葉を落とし茶色い果実だけをつけたハゼノキがよく見られた。和ろうそく材料としてその実を利用し江戸時代から林産物として製造されていた。芯は和紙を使っていたそうだ。

赤い果実をつけたシロダモがこのコースの売りであったが、残念ながら野鳥に食べられたのか殆ど見られなかった。道を外れた場所で少し見られた。このコースは大阪方面から東灘までの海岸線がよく見渡せ、絶好のビューポイントである。班によっては植物だけでなくヒイラギナンテンの葉裏についたオオカマキリの卵囊を観察した。冬場は昆虫に遭遇するのは難しいが、よく見れば卵・幼虫・蛹・成虫での越冬状態を観察することができる。最近ほとんど見る事が少なくなったミノムシも確認できた。

魚屋道合流点付近で予定より早い昼食となった。時間も十分あり和やかな雰囲気での昼食となった。このコースはあまり知られていないため人通りも少なく静かで、日当たりや景色も良いのでまた季節を変えて訪れたいルートだ。

① 山の神跡→保久良神社→夢広場→保久良登山口・天上川公園

ここから風吹岩への道と分かれ保久良神社へと下るルートをとる。この周辺では所々でコナラのナラ枯れが発生していた。根元に特有のフラスが見られ、キクイムシが潜入した箇所から樹液の漏出が観察された。クロモジについては特徴ある冬芽と香についての説明があった。樹皮の黒い文様が文字のように見えることが名の由来らしい。六甲山中ではあまり見られないカナクギノキが見られた。樹皮が部分的に剥がれ、鹿の子模様に似る事より名付けられたとの事。さらに下って行くとリンボクが現れた。花は終わっているが、上部に果実が少し残っている。葉はあまり特徴がないが、樹皮はバラ科バクチノキ属（旧サクラ属）なので他の種類と良く似ている。快適に下っていくと金鳥山東展望台に到着した。ここは神戸市街を見下ろせる絶好のビューポイントで六甲アイランド、ポートアイランドさらには淡路島まで見渡せる場所であった。ここからの下りは段差があり道が荒れているので慎重に下るように注意した。悪場を下り終えると保久良神社に到着した。このコース唯一のトイレがあるので班ごとに小休止する。ヤマモモ、クロガネモチ、アカガシなど巨木が見られ社寺林として長年保護されてきたことが伺える。いわゆる鎮守の森だ。下見ではこの周辺でイノシシがよく出たので注意していたが、観察会当日は幸いにも現れなかった。

ゆめ広場へと下って行く。ここではイヌマキ、タラヨウ、ムクロジ、コブシが植栽されている。このムクロジは木が低いのでサル顔のような葉痕や冬芽を見て楽しまれていた。もうすぐゴールなので足取りは軽やか。公園手前のイヌビワの前でイヌビワとイヌビワコバチの共生の説明があった。雌

雄異株で雄木と雌木の役割が異なる。雄株の花囊でコバチは繁殖し、雌株の花囊でコバチが運んだ花粉で受精し種子を作る共生システムとの事であった。よく現在までそのような関係が続いているものと驚きである。

天上川公園で班毎にビジターの感想を伺った。天気がよく景色も最高で故障なく帰れ、総じて満足したというご意見が多かった。主な感想を下記に示しました。

最後に特筆すべきは、この度の参加者で岡山1名、京都1名、奈良1名、東京1名と遠方から来られた。どのような情報で参加されたのか分からないが、会員として嬉しいかぎりだ。

参加者の感想

- ・全体的に良い観察コースだった。
- ・初参加でしたが写真での説明があり、理解し易かった。
- ・いろいろな冬芽、樹皮を見ることができ良かった。
- ・観察道が狭いため後ろの方は聞き取りにくかった。
- ・神戸の街の歴史、地質、六甲山の話が聞けて良かった。
- ・落語のネタからヤマコウバシの話は分かり易かった。
- ・持ち物の中にストックを入れて欲しいコースでした。



今後の参考にさせていただきます。

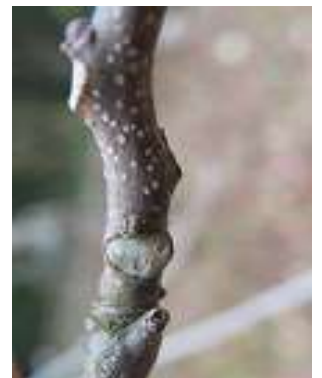
当コースでの映像



観察会風景



タラノキ葉痕



夢広場で観察したムクロジの葉痕



シロダモの果実



ナラ枯れ防止策



キツタの付着根